

あなたのプロジェクトは どのタイプ? (1) —タイプ別処方箋

オブジェクトモデリングスペシャリスト
土屋 正人

Masato Tsuchiya
m-tsuchi@sra.co.jp

◆自己診断クイズ

これからあなたのプロジェクトについて質問をします。
紙を用意して、答えを書きとめてみてください。

質問 1: チームはまとまっていますか?

- メンバーは積極的ですか? 消極的ですか?
- メンバーは能動的ですか? 受動的ですか?
- チームはにぎやかですか? 静かですか?

質問 2: プロジェクトの成功基準は明確ですか?

何をどれくらいできたら成功といえますか?

質問 3: リスクはありませんか?

- 技術的なリスクはどのくらいありますか?
- 要求が大きく変わるリスクはどのくらいありますか?

質問 4: チームは同じ場所で作業していますか?

ロケーションが別ではありませんか?

質問 5: 計画は明確ですか? いつまで正確とですか?

- カットオーバーまで見通せますか?
- 3ヶ月先はわかりませんか?
- ひと月先もわかりませんか?

質問 6: プロセスは明確ですか?

- それはゆるやか(柔軟)ですか?
- それはがちがち(硬直)ですか?

質問 7: ビジョンは明確ですか?

チームはビジョンを理解していますか?

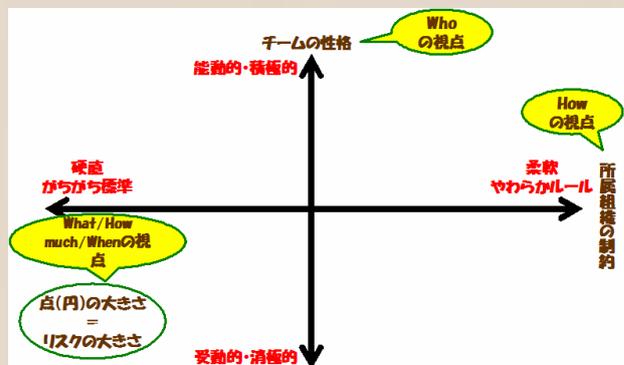
顧客・ユーザはビジョンを理解していますか?

顧客とチームの理解は同じものですか?

◆今、どこにいますか?

プロジェクトを成功させるためには、プロジェクトに合ったやり方を創る、あるいは選ぶ必要があります。そのためには、自分たちが今どこにいるのか、その位置をしっかりと把握する必要があります。どこにいるのかわからないのなら、地図が必要です。地図なしでプロジェクトという未踏の地を歩こうとすると、必要な装備を忘れたり、無駄な装備を苦労して運んだりすることになりかねません。

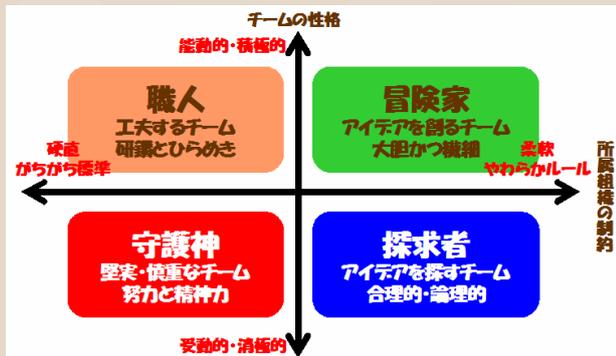
現在位置を把握するための「地図」を用意しました。プロジェクトのコンテキストを把握するための、**チームの性格**と**組織の制約**の2軸からなる地図です。先ほどの質問の答えをもとに、自分たちの現在位置をプロットしてみてください。その際、**リスク**の大きさを、プロットする点の大きさで表してみてください。質問はそれぞれ、Who (質問 1)、How (質問 6)、What/How much/When (質問 2、3、5) の視点からのものです。Why (質問 7) と Where (質問 4) の答えは後ほど検討します。



◆あなたのPJはどのタイプ?

さて、自分たちがいる場所を確認して頂けたでし

ようか？ これだけでもプロジェクトのやり方を決める材料になります。チームが能動的・積極的でも組織標準準拠という制約が厳しければ、新しいやり方を取り入れるときは慎重を期す必要があります。逆に組織の制約が緩やかでもチームが消極的であれば、ドラスティックな変更が必要なアプローチは逆効果です。ここでは大雑把ではありますが、各象限単位でプロジェクトタイプを分けてみました。ニックネームがプロジェクトの性格を適切に表現できているでしょうか。



冒険家は大胆かつ繊細です。未踏の地を冒険することを考えてみてください。行動を起こす前には綿密な事前調査を行なうでしょう。外からは大胆そうに見えても、自分たちの規律に従って行動している、そのような自己組織化されたチームによるプロジェクトです。

探求者は合理的・論理的です。自分たちのやり方をより良くするためのプラクティスを常に探し求めます。あまり実績のないプラクティスには慎重ですが、実績のあるプラクティスは取り入れてカイゼンを続ける、そんなチームによるプロジェクトです。

職人は自己研鑽に励み、制約の下にあっても、ひらめきを生かして工夫を重ねることで、カイゼンを続けるチームによるプロジェクトです。

守護神は努力と精神力で、厳しい制約の下であっても規律を守り品質を維持する、堅実で慎重なチームによるプロジェクトです。

◆タイプ別処方箋

プロジェクトを4つのタイプに分類してみました。評価軸に違うものを選ぶことで、いろいろな視点でプロジェクトを捉えることができるでしょう。次回は各タイプ別に、プロジェクトをより良くするための処方箋を考えてみたいと思います。

◆◆◆「無意識の間違い」していませんか？◆◆◆

コンサルティングチーム チーフコンサルタント 宮城 豊

先日帰宅時に、地元の地下鉄の駅から地上に出るエスカレータが急に止まりました。経験した方もいると思いますが、止まったエスカレータの上を歩くと奇妙な感覚に襲われます。バランスが崩れる感じがして、乗る時、降りる時に不必要な力が入ってしまいます。この日も降りる時に躓きそうになりました。

これは「頭では止まっているエスカレータの上を歩くと分かっていても、体は無意識の内にエスカレータを昇る運動をしようとしてしまう」ということにより起きるようで、Broken Escalator Phenomenon (故障エスカレータ現象) という、立派な名前も持っている現象です。

経験したことが無い方は、もし止まっているエスカレータを見かけたら、頭ではわかかっていても体がだまされる、この奇妙な感覚を体験してみてください。

この地下鉄の駅ですが、入り口を入ってすぐに階段があり、その並びの奥にエスカレータがあります。これまでどんなに遅れぎみでも、階段を降りずに横切ってエスカレータを歩いて降り、また階段を逆に横切って改札へと歩いていました。ふと思立って、直接階段を下りた場合とどちらが早いのかを検証してみたところ、階段を下りる方が、少しですが早いという結果になってしまいました。

こちらは頭と体の感覚の差では無く、動いているエスカレータを歩いて降りる方が早いだろうという、単純な思い込みの上の間違いでしたが、普段の行動でも、このような意識上の間違い、勘違いの他に、故障エスカレータ現象のような無意識を原因とする間違い、勘違いをしている可能性があります。

あなたが今“間違いない”と思っていることは、本当に間違いありませんか？

夢を。



GSLetterNeo Vol. 14

2009年9月20日発行

発行者 ●株式会社 SRA 産業開発統括本部

編集者 ●土屋正人、板沢智雄、柳田雅子、小嶋勉、野島勇

ご感想・お問い合わせはこちらへお願いします ●gsneo@sra.co.jp

株式会社SRA

〒171-8513 東京都豊島区南池袋2-32-8

夢を。Yawaraka Innovation

やわらかいのべーしょん